

平成 30 年度 子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査） の第三次中間評価に関する実施要領

1. はじめに

子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）は、国の予算を用いて実施される長期・大規模の疫学調査であり、その実施に当たっては、科学的、第三者的な観点からの評価を行うことが不可欠である。

エコチル調査においては、調査の実施に関する企画立案及び評価を行うため、外部の専門家からなる企画評価委員会を環境省に設置しており、同委員会において、調査の効果的・効率的な運営、目的の達成、国民・社会への成果の還元等の観点から、エコチル調査の評価を実施することとする。

エコチル調査は、環境省が企画し、コアセンター（国立環境研究所）が実施主体となって、メディカルサポートセンター（国立成育医療研究センター）及びユニットセンターとの協働により実施しており、エコチル調査の実施状況の評価についても、行政機関が行う政策の評価に関する法律に基づく環境省の政策評価や、独立行政法人通則法の規定に基づく国立環境研究所における業務実績評価などを含め、重層的に実施されることとなる。本委員会では、こうした評価体系の中で、環境省及び実施機関が一体となった事業として、エコチル調査全体について、第三者的な観点からの評価を行うこととする。

2. 評価のスケジュール

現行の研究計画書においては、エコチル調査の実施期間は、平成 23 年 1 月から 2033 年度まで（3 年間の参加者募集登録（リクルート）期間、13 年間の追跡（フォローアップ）期間、5 年間の解析期間）とされており、長期間にわたる事業であることから、社会情勢の変化や目標の達成状況等を把握し、必要に応じて改善を行うための自己点検及び評価を毎年度実施する。また、調査の進捗状況に応じて複数回の中間評価を行い、事業終了後に最終評価を行う。

評価のスケジュールについては、今後さらに検討することとするが、概ね以下のようなスケジュールが考えられる。

<評価のスケジュール>

| 年度 | 年次評価 | 中間評価 | 主な評価内容 |
|-------------|------|------|--|
| 平成 23 | ● | | — |
| 平成 24 | | ● | リクルート 2 年目の状況を踏まえ、リクルートの終了及び初期のフォローアップに向けた評価を行う。 |
| 平成 25 | ● | | — |
| 平成 26 | | ● | フォローアップ初期の状況を踏まえ、長期的なフォローアップに向けた評価を行う。 |
| 平成 27 | ● | | — |
| 平成 28 | ● | | — |
| 平成 29 | ● | | — |
| 平成 30 | | ● | 6 歳頃までのフォローアップの状況を踏まえ、学童期のフォローアップに向けた評価を行う。 |
| 平成 31(2019) | ● | | — |
| 2020 | ● | | — |

| 年度 | 年次評価 | 中間評価 | 主な評価内容 |
|------|------|------|---------------------------------------|
| 2021 | ● | | — |
| 2022 | ● | | — |
| 2023 | | ● | フォローアップ終盤の状況を踏まえ、フォローアップの終了に向けた評価を行う。 |
| 2024 | ● | | — |
| 2025 | ● | | — |
| 2026 | ● | | — |
| 2027 | ● | | — |
| 2028 | | ● | フォローアップの終了を踏まえ、調査結果の取りまとめに向けた評価を行う。 |
| 2029 | ● | | — |
| 2030 | ● | | — |
| 2031 | ● | | — |
| 2032 | ● | | — |
| 2033 | 最終評価 | | 事業全体の成果について最終的な評価を行う。 |

3. 評価の視点

環境省研究開発評価指針(平成29年7月14日 総合環境政策統括官決定)では、環境省の研究開発事業について、事前評価、中間評価、事後評価等を通じて評価を行うべき項目及び基準として、以下のように記載されている。

「評価は、必要性、効率性、有効性の観点の下、研究開発課題の特性に応じて、適切な評価項目及び評価基準を設定し実施する。

評価項目としては、例えば、「必要性」については、環境行政上の意義（環境問題の解明・解決、環境政策・施策の企画立案・実施等におけるニーズへの適合性）、科学的・技術的意義（独創性、革新性、先導性、発展性等）等が、「効率性」については、計画・実施体制の妥当性、目標・達成管理の妥当性、費用構造や費用対効果の妥当性、研究開発の手段やアプローチの妥当性等が、「有効性」については、環境問題の解明・解決、環境政策・施策の企画立案・実施等に対する効果等が挙げられる。

また、評価基準については、設定された各評価項目についての判断の根拠があいまいにならないよう、あらかじめ明確に設定する。」

さらに、同指針では、評価時期ごとに、評価結果の活用方法として、以下のように記載されている。

「研究開発実施・推進部局は、研究開発課題の評価結果を、予算、人材等の資源配分への反映、研究開発の質の向上のための助言、研究開発施策等の企画立案やその効果的・効率的な推進に活用する。

評価結果の具体的活用の例としては、評価時期別に、

- ・ 事前評価では、採択・不採択又は計画変更、優れた研究開発体制の構築等
- ・ 中間評価では、進捗度の点検と目標管理、方向転換、運営の改善、研究開発の質の向上、研究者の意欲喚起等
- ・ 事後評価では、計画の目的や目標の達成・未達成の確認、実施者又はその代

表者の責任の明確化、国民への説明、結果のデータベース化や以後の評価での活用、次の段階の研究開発の企画・実施、次の政策・施策形成への活用等
・ 追跡評価では、効果や波及効果の確認、国民への説明、関連する研究開発施策等の見直し（過去の評価の妥当性の検証を含む）等
が挙げられる。」

4. 評価の進め方

- 1) 企画評価委員会の下に評価ワーキンググループを設置する。
- 2) 環境省、コアセンター、メディカルサポートセンター、ユニットセンターそれぞれが、上記の評価視点に関連する自己点検を実施して、収集した情報を環境省に提供する。
- 3) 環境省が、コアセンター、メディカルサポートセンター及びユニットセンターの実地調査を行い、上記の評価視点に関連する情報をさらに収集する。なお、メディカルサポートセンター及びユニットセンターの実地調査には、コアセンターも同席する。
- 4) 評価ワーキンググループにおいて環境省、コアセンター、メディカルサポートセンターのヒアリングを行うとともに、環境省より実地調査の報告を受け、評価書（案）を作成する。
- 5) 企画評価委員会において、評価書（案）の審議を行い、評価書を取りまとめる。

5. 結果の取扱い

評価結果は、調査計画・運営実施の改善、予算等の資源配分への反映等に活用するとともに、国民への説明責任を果たすため、これらの活用状況も含め評価結果等を公表する。

平成 30 年度 子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）の 第三次中間評価に関する方針

1. エコチル調査第三次中間評価の考え方

環境省、コアセンター、メディカルサポートセンターについては、第二次中間評価（平成 26 年度）後の調査の実施状況を評価する。

一方、ユニットセンターについては、本年度（平成 30 年度）の状況を評価する。

2. 評価の視点

「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）の評価に関する実施要領」を踏まえ、第三次中間評価においては、参加者のこれまでのフォローアップ状況の推移の点検と目標管理、学童期のフォローアップに向けた準備状況、個人情報を含むデータ利用の安全性確保、運営の改善、研究開発の質の向上等の観点から、以下の視点で中間評価を行うこととする。

- 調査実施のための組織体制の妥当性
- フォローアップの進捗状況等
- 長期的なフォローアップに向けた準備状況
- 詳細調査の実施状況
- 個人情報管理の状況
- データ利用及び成果発表のルールの順守状況
- 研究（追加調査等）の体制及び実績
- 調査結果に関する広報活動の状況
- 環境政策・施策への反映
- その他（平成 29 年度年次評価書を受けての取組状況）

3. 評価ワーキンググループ委員

| 氏名 | 所属 |
|-------------------|------------------------------------|
| 有村 俊秀 | 早稲田大学 政治経済学術院 教授 |
| 井口 泰泉 | 公立大学法人 横浜市立大学 特任教授 |
| 田中 政信 | 公益社団法人 日本産婦人科医会 名誉会員 |
| 麦島 秀雄 | 公益社団法人 日本小児科学会 |
| 村田 勝敬 | 国立大学法人 秋田大学大学院医学系研究科 環境保健学講座 教授 |
| 内山 巖雄 (オブザーバー) | 国立大学法人 京都大学 名誉教授 |

4. 第三次中間評価のための自己点検において収集すべき情報

4-1 環境省

| | | | |
|---|-------------|------------------------|------------------------------|
| 1 | 実施体制 | 実施体制 | |
| | | 環境省が設置する委員会 | |
| 2 | 予算 | 予算状況 | |
| 3 | 企画評価 | 企画評価委員会における審議 | |
| | | エコチル調査実施機関の評価 | |
| 4 | 国際連携 | 国際連携に関する取組 | 国際シンポジウムの開催状況 |
| | | | 大規模出生コホート調査に関する国際作業グループの活動状況 |
| | | | 国際学会等への専門家派遣状況 |
| | | | 小児環境保健分野の研究者育成のための取組状況 |
| 5 | 広報活動 | 認知度向上のための取組 | イベント等アウトリーチ活動の状況 |
| | | | 広報戦略指針及び今後の方針の策定状況 |
| | | | ホームページを通じた情報発信の取組状況 |
| | | エコチル調査の成果の社会への還元のための取組 | 広報活動の効果測定と評価状況 |
| | | | 調査結果のプレスリリース実施のための体制整備状況 |
| | | | 効果的なリスクコミュニケーション実施のための体制整備状況 |
| | | シンポジウム等アウトリーチ活動の状況 | |
| 6 | 倫理的事項 | 倫理審査の状況 | |
| 7 | 環境政策・施策への反映 | 環境政策・施策への反映状況 | |

4-2 コアセンター

| | | | |
|------------------------------|---------------|------------------------|--|
| 1 | 実施体制 | コアセンターの組織図 | 職種、専門分野等（エコチル雇用、雇用形態、(常勤/非常勤)、勤務時間数、エコチル調査における役割及び具体的業務内容) |
| | | コアセンター主催会議 | 委員名簿（座長には印） |
| | | スタッフ研修 | コアセンター内、ユニットセンターへの研修の状況 |
| | | 予算執行 | 予算の効率的執行に向けた取組状況 |
| 2 | 全体調査及びフォローアップ | 参加者数及び質問票回収状況 | 現参加者数と質問票回収率の推移とその原因分析状況 |
| | | フォローアップ率向上、維持のための取組状況 | 長期的なフォローアップに対する検討事項 ユニットセンターに対するアドバイス内容 |
| | | 質問票調査 | 調査の進捗状況と今後の準備状況 |
| | | | 結果返却状況 |
| | | 学童期検査に向けた準備 | 8歳時検査の実施体制 (コアセンター及びエコチル調査全体) |
| | | | 8歳時検査の準備状況 |
| | | 参加者への情報発信 | 参加者への情報発信状況 |
| 生体試料回収状況 | 試料の種類、数 | | |
| 3 | 詳細調査及びフォローアップ | 環境測定、医学的検査等 | 実施状況と今後の準備状況 結果返却状況 |
| | | 生体試料回収状況 | 試料の種類、数 |
| | | コアセンターにおける研究体制 | 責任者、統計解析責任者、従事者、研究体制図 |
| 4 | 研究 | データ入力精度管理 | データ入力精度を向上させるための具体的な取組状況 |
| | | 論文執筆状況 | 論文の質担保のための取組状況 論文発表状況（予定含む） |
| | | | データ利用及び成果発表ルールの整備状況 |
| | | エコチル調査の成果の社会への還元のための取組 | 調査結果のプレスリリース実施のための体制整備状況 |
| 効果的なリスクコミュニケーション実施のための体制整備状況 | | | |
| 5 | 化学分析 | 進捗状況と今後の準備 | データ固定の現状と今後の予定 分析方法の開発等進捗状況 |
| | | | コアセンターの運用状況 ユニットセンター等の監理状況 |
| 6 | 個人情報管理 | 個人情報管理の運用状況 | コアセンターの運用状況 ユニットセンター等の監理状況 |
| | | | コアセンターの運用状況 ユニットセンター等の監理状況 |
| 7 | 情報セキュリティー | 情報セキュリティーの運用状況 | コアセンターの運用状況 ユニットセンター等の監理状況 |
| | | | コアセンターの運用状況 ユニットセンター等の監理状況 |

4-3 メディカルサポートセンター

| | | | |
|---|---------------|--------------------|--|
| 1 | 実施体制 | メディカルサポートセンターの組織図 | 職種、専門分野等（エコチル雇用、雇用形態、(常勤/非常勤)、勤務時間数、エコチル調査における役割及び具体的業務内容) |
| | | メディカルサポートセンター主催会議 | 委員名簿（座長には印）及び検討等の進捗状況 |
| | | スタッフ研修 | メディカルサポートセンター内 ユニットセンターへの研修の状況 |
| | | 予算執行 | 予算の効率の執行に向けた取組 |
| 2 | 全体調査及びフォローアップ | 質問票調査 | 質問票作成の進捗状況と今後の準備状況 |
| | | 学童期検査に向けた準備 | 8歳時検査の準備状況（検査項目、検査手法の確立等の検討） |
| 3 | 詳細調査及びフォローアップ | 医学的検査等 | 実施状況と今後の準備状況 |
| | | 結果返却対応 | ユニットセンターからの問い合わせ対応体制等 |
| 4 | 研究 | メディカルサポートセンターの研究体制 | 分野別（責任者、統計解析責任者、従事者、研究体制図） |
| | | 成果の社会への還元を取組状況 | 成果発表ルールの周知方法、発表体制等 |
| | | | 成果発表の状況 |
| 5 | 個人情報管理 | 運用状況 | リスクコミュニケーションに係る取組状況 |
| | | 運用状況 | |
| 6 | 情報セキュリティー | メディカルサポートセンターのシステム | |
| | | パソコンのウイルス対策 | |
| | | 運用状況 | |

4-4 ユニットセンター

| | | | |
|-------------|------------------|------------------------------------|------------------------------------|
| 1 | 実施体制 | ユニットセンターの組織図 | 職種、専門分野、エコチル調査における役割 |
| | | ユニットセンター構成員(教員、事務職員、リサーチコーディネーター等) | 職種、人数、業務内容、週平均の業務時間数等 |
| | | 研究体制 | |
| | | 地域運営協議会 | 地域運営協議会開催状況 |
| | | 関係機関との協力体制 | 関係機関との連携内容 |
| | | 研修 | スタッフ等の研修状況 |
| 2 | 全体調査及びフォローアップ | 参加者ステイタスの状況 | 現参加者数維持のための取組状況 適切な登録、追跡の実施の有無等 |
| | | 質問票回収状況 | 質問票回収率 |
| | | | 質問票回収率維持のための取組状況 |
| | | | 質問票のデータ登録状況 |
| 学童期検査に向けた準備 | 8歳時検査準備状況 | | |
| 3 | 詳細調査及びフォローアップ | 環境測定、医学的検査等 | 調査の実施状況と6歳時検査の準備状況 |
| | | 結果返却対応 | 実施状況 参加者からの問い合わせ状況 |
| 4 | エコチル調査の成果の社会への還元 | 成果の社会への還元の取組状況 | 成果発表ルールの周知方法、発表体制等 |
| | | | 成果に係る情報発信状況 |
| | | | 調査地域でのアウトリーチ活動状況 |
| | | | リスクコミュニケーションに係る取組状況 |
| 5 | 個人情報管理 | 運用状況 | |
| 6 | 情報セキュリティー | 各ユニットセンターのシステム | |
| | | パソコンのウイルス対策 | |
| | | 運用状況 | |
| 7 | 年次評価を受けての取組状況 | 平成29年度年次評価を受けての取組状況 | |

5. 平成 30 年度 第三次中間評価実施スケジュール及び実施フロー

